

## 令和元年度学校評価について

令和元年度学校評価に係るアンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果をふまえ、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行いました。

### 【確かな学力について】

「勉強はよくわかる」の項目で、肯定的な意見の割合が小学部は８８％、中学部は７３％でした。前期と後期を比較すると値はほとんど変わらない結果となりました。

また、「タブレットパソコンや電子黒板を使って学習することでよくわかる」の項目についても、小中学部ともに高い値で、小学部は１００％、中学部では８８％という結果でした。

保護者のアンケートで「子どもが学習内容を理解し、基礎的な学力をつける」の項目では、小学部では８５％、中学部では７６％と肯定的な意見をいただきました。「学校が、わかりやすい授業を工夫する」の項目では、肯定的な意見は小学部の保護者は７９％近く、中学部の保護者は８８％近くありました。

教職員の実現度の「わかりやすい授業づくりを工夫する（ICT 有効活用を含む）」の項目では９３％と高い結果となりました。

全体の意見として一定の評価を得ておりますので、引き続き教職員がＩＣＴの機器の活用を含め、児童生徒に寄り添い、授業改善、丁寧な指導を行っていかれたらと考えております。

### 【豊かな心について】

「自分にはよいところがある」という項目に対し、肯定的にとらえている割合が小学部では７３％、中学部では６５％でした。

「相手の人の気持ちを含め考えて行動する」の項目については、肯定的な意見が小学部では９２％、中学部では８８％と高い値となりました。

「私の悩みや困りごとを聞いてくれる人がいる」については、小学部９２％、中学部７２％とともに、前期と比べ肯定的な意見が減少しました。教職員の「子どもの相談に適切に応じる」の実現度が９３％と高い数字でした。

本校に入学する児童生徒は、入院により急に今までとは違う環境になり、とても不安な気持ちを持っています。このような様々な感情をその時に

受け止めて、対応していかなければいけないと感じています。

「自分から進んで挨拶している」に関して、肯定的な意見が小学部６５％中学部６９％でした。

保護者のアンケートの「子どもがあいさつをする」では前期と比べ小学部は３割ほど肯定的な意見が減少しました。また、学校関係者のアンケートの「来校したとき、児童生徒は挨拶をする」という項目では、肯定的な意見が５３％となりました。病院の中では、人の出入りが多く挨拶をしないことも多いようですが、病院のスタッフに対しても、児童生徒が自分なりの挨拶方法を身に付け、誰に対しても自信を持って挨拶ができるよう日々取り組んでいきたいと思っています。

### 【教職員の自己評価について】

前期と比べ、後期に入って実現度の肯定的な割合が全体的に減少しました。後期は、児童生徒数も増え、児童生徒のために教材など準備するが、治療や子どもの体調などにより、思うように指導できないという教員の思いがアンケートの結果にも表れています。

「子どもの良いところをほめる」「個々の児童生徒の困りに応じた支援をする」「教育目標の趣旨に沿った教育活動を行う」では実現度が１００％と高い結果となりました。

入院中の短期間で児童生徒の実態を把握し、個に応じた支援をすることは難しいことですが、個別の包括支援プランの活用を含め、改めて見直していかなければならないと考えます。

アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見、ご助言を、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら学校教育活動に活かしていきたいと思っています。